

はじめに

故五十嵐平達氏は「20世紀の国産車」(国立科学博物館版)の中で次のように述べている「日本で書かれる日本の自動車史と称するものが、殆ど通り一遍の時系列併記であり、資料的にも検証されていない長老談などが多く、保存写真にも大切なクルマの固有名詞が記入されていない例が多い。そして何よりも、日本の自動車として語られる車輛そのものが、現存メーカーを主体とするという点で、歴史書ではなく『社史』的なものが多い」

まったく同感である。欧米は古い自動車製造の歴史をもっているから、その製造史がイコール自動車史と成り得るが、日本では各メーカーの歴史が浅いにもかかわらず、急速に世界1、2を争う自動車大国となった関係で、どうしても自動車ショー的な現存メーカーの「自動車製造史」に偏りがちである。まるで、ヘッドライトを照らして、ひたすら欧米の車を追い越そうとするドライバーに似ている。バックミラーを見る余裕などないように思えてならない。もう少し我が国の自動車史を振り返ってみてもらいたいと思う。

例えば或る雑誌に、名のある自動車史家が「フォードが我が国に輸入されたのはT型からである」と述べていたのには驚いた。フォードはA型が我が国に輸入販売されている。

わが国に最初に自動車が入ったのは明治31年(1898年)で、これはフランス製のガソリン車、次いでアメリカ製の電気自動車、さらにその1年後にアメリカ製の蒸気自動車が入っている。いずれも当時欧米の最新式自動車である。

また、わが国に自動車が入ったのは、明治28年(1895年)11月の「東洋学芸雑誌」で、パリー・ボルドー間往復レースを報じているし、その翌年の「日本」新聞には、前年明治27年にフランスのプッチュルナー紙が主催した世界最初の自動車レース、パリ・ルーエン間レースの様子を詳細に報じている。

国産車の製作にしても、桑原樸のように明治38年にガソリン発動機の特許をとり自動車を製造販売した人がいるし、山羽虎夫のようにガソリン発動機の特許をとってオートバイをつくって販売した人もいた。さらに仁礼兼氏のように明治39年にトラックの特許をとって、宮原海軍機関中将から絶賛され、運輸会社に製造権利を販売した人もいる。

五十嵐平達氏が嘆いていたように、日本では今まであまりにも「日本自動車史」の研究がないがしろにされてきた。本写真集が、これから日本自動車史を研究される方の一助になれば幸いである。

本書の作成には次の方々から貴重な写真を頂きました。厚く御礼申し上げます。(敬称略)
有森真子、伊藤直人、井上眞、出雲正樹、石田祐二郎、上條正順、片山章一、塩地茂生、鈴木昭彦、高橋昇、田村重夫、当摩節夫、永瀬弘子、中島一成、林ふさ子、松井あさの、三島洋一、嶺尚。

また三樹書房小林社長には、私の23年間の集大成だから、と無理を言ってこのような大作を出版して頂いた。ほんとうに感謝にたえない。

平成24年3月7日、小生83歳の誕生日に

佐々木 烈

凡 例

1. 本写真集は拙著「日本自動車史Ⅰ」、「日本自動車史Ⅱ」の写真と、それに平成18年7月から4年間、日刊自動車新聞に連載した「都道府県最初の乗合自動車」の取材で全国を廻って得た各地の乗合自動車の写真を加えて編集した。
2. 年代は「東洋学芸雑誌」明治28年(1895年)11月25日号に掲載された「自動車」の記事から、昭和2年(1927年)1月11日、大阪に日本ゼネラル・モーター株式会社が設立され、それに対抗してフォードが新A型を発表、昭和3年(1928年)にヘンリー・フォードが日本各地の新聞にその披露文を掲載するまでを取り上げた。
3. 大体において年代順にしてあるが、輸入販売会社、例えば築瀬商会、日本自動車合資会社、合資会社高田商会などのように長期間にわたって各種の自動車を販売しているものを年代順にすることは、他の資料との関係でかえって複雑になるので、これらは年代順にせずに会社別に纏めた。
4. 会社組織の自動車事業者は、出来るだけ設立年月日と本社の住所を記載した。
5. 明治、大正時代に自動車や内燃機関、プラグ、セルフ・スターター、ハンドルなど自動車関係の発明特許や実用新案公告をとった人たちを取り上げた。ページの都合で、その明細書の1ページと図面の一部のみとした。
6. 軍用自動車、消防自動車、木炭自動車、耕運機、運転手、自動車学校、ガソリン計量器、ガソリン・スタンド、石油会社、タイヤ、泥除け器、付属品、部分品、自動車専用道路などは最後に掲載した。
7. 広告や添え書きなどに「自動車」と、人偏のある「自働車」とが混在しているが、本書では添え書き、目次、インデックスともに「自動車」に統一した。人偏のある「自働車」は、公文書である各府県の取締規則を例にとってみてもまちまちで、明治36年8月20日に制定された最初の愛知県令は「自動車」であったが、20番目に制定した東京警視庁の取締規則は「自働車」となっている。(16府県が自働車)。大正8年に内務省が全国統一の自動車取締規則を制定し「自動車」としたことにより、以後公文書はじめ世間一般にも「自動車」に統一された。
8. 同じ車種でも違った読み方をしているものがある。例えば英国製デムラーであるが、販売広告にデムラーとデームラー、写真にダイムラーと三様に書かれている。これはデームラーとした。また「イスパノ・スイザー」も販売広告には「ヒスパノスキザー」と英語読みになっている。これはスペイン語読みのイスパノスイザとした。
9. 最後に自動車業界幹部たちの日産自動車株式会社子安工場視察の写真に掲載した。写真を撮ったのは昭和9年であるが、写っている人物はいずれも明治から大正時代にかけての業界代表者たちで、彼等が勢揃いしているので特に掲載した。
10. 同上、東京自動車三十年会記念碑も、建設したのは昭和28年であるが、当時30年以上自動車業に関与した人達の記念碑ということで取りあげた。

目 次

■ 目次にある、⇒関連マークについて

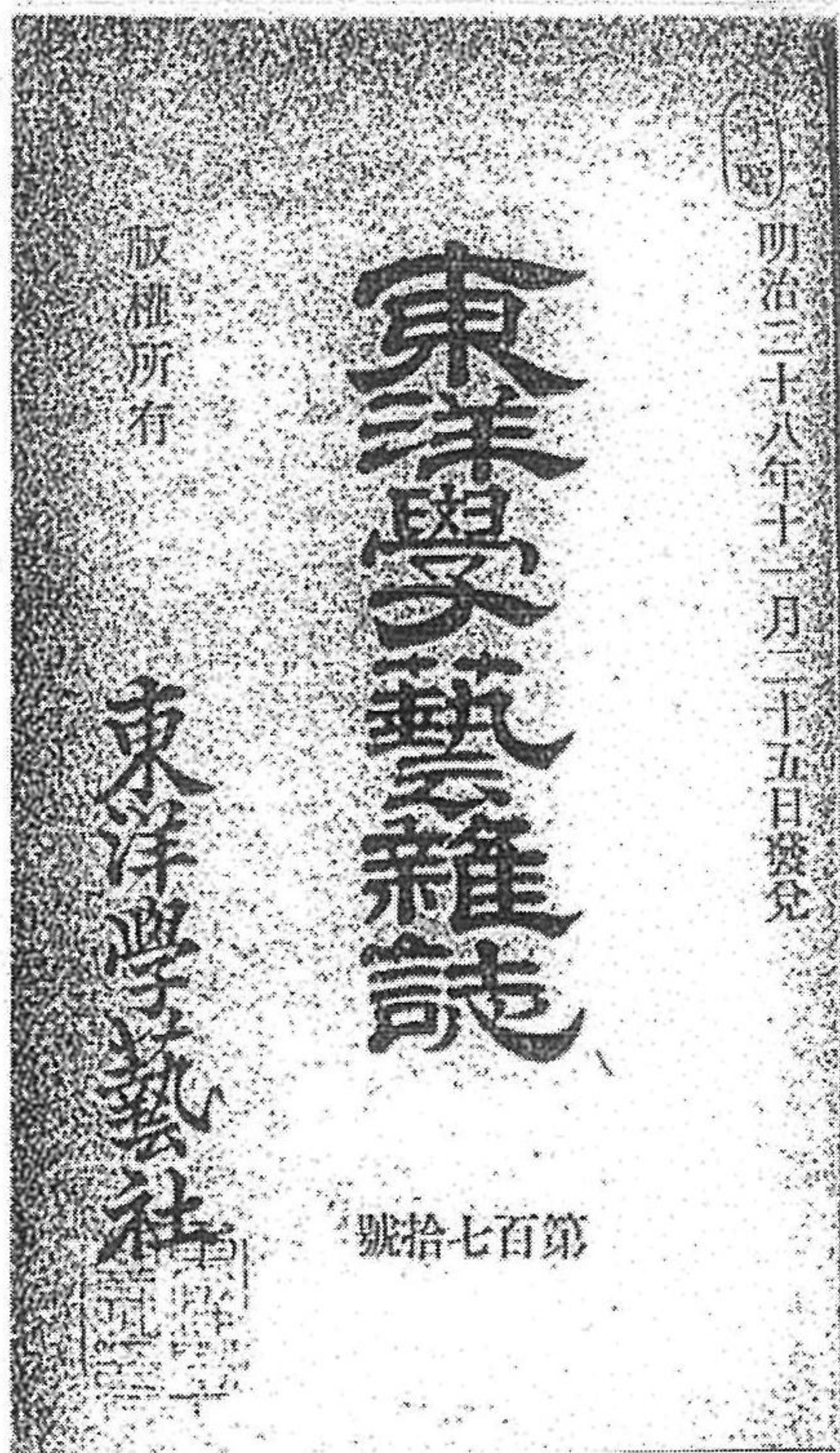
⇒関連：の後の数字は、弊社既刊の『日本自動車史』『日本自動車史Ⅱ』にその写真や史料の関連事項が載っているページです。但し、ページが複数にわたるものは3つのみ示しました。

本書の写真・史料について、さらに詳しい内容を知りたいという場合は、『日本自動車史』『日本自動車史Ⅱ』をぜひ併せてお読みください。

目次

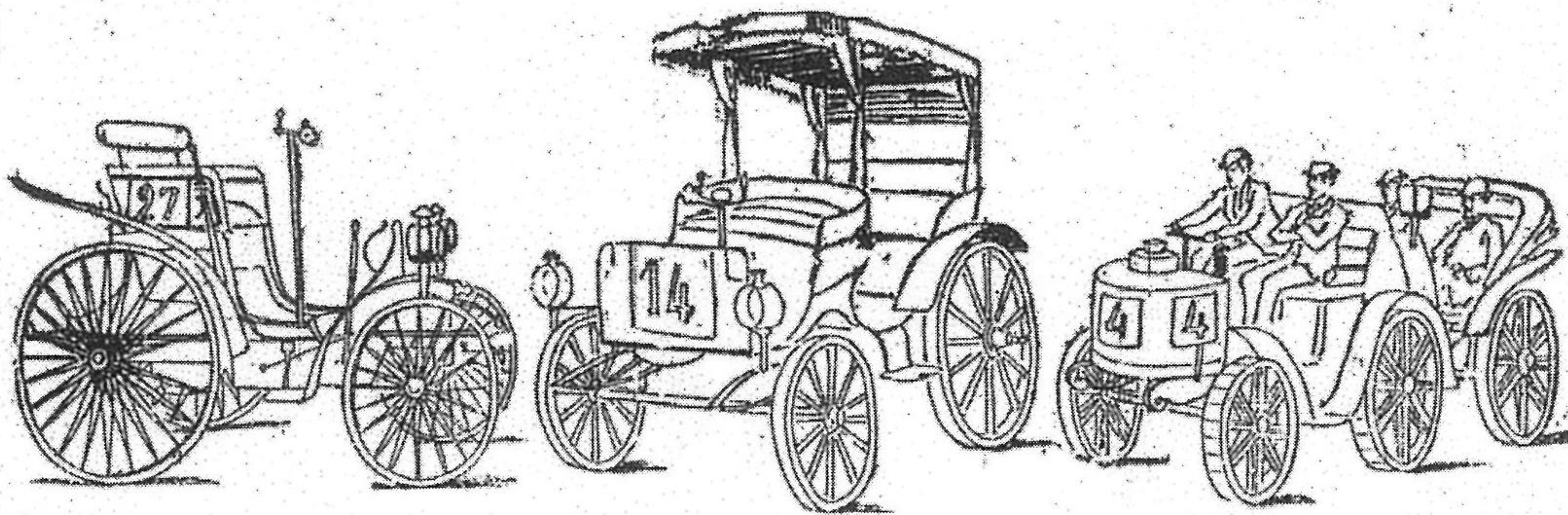
■ 東洋学芸雑誌(自動車)、日本新聞(馬いらずの馬車) 1 ⇒『日本自動車史』P270	■ シー・ニッケルのデュリエ自動車とその競売 31 ⇒『日本自動車史』P55、P114
■ 東京日日新聞(パナール工場)、英国商業雑誌(馬を用いざる車輛) 2	■ 第5回内国勸業博覧会(大阪) 32 ⇒『日本自動車史』P91
■ 英国商業雑誌(汽機汽鐘)、(汽力自動車) 3	■ アンドリュース・ジョージ商会とトレド蒸気自動車 33 ⇒『日本自動車史』P95
■ 時事新報(電車) 4	■ 三井高保と佐竹作太郎の自動車、三井物産の電気自動車充電機 34 ⇒『日本自動車史』P34、P229、P231
■ 雑誌「太陽」(電気乗車エレクトリック・ハンソム) 5	■ 吉田真太郎のグラジェーターと有栖川宮殿下のダラック 35 ⇒『日本自動車史』P67『日本自動車史II』P111
■ 電気之友(電気四輪車) 6	■ 双輪商会自動車販売部とシカゴ・モーター・ヴィークルズ 36 ⇒『日本自動車史』P71、P72
■ 英国商業雑誌(起動車、ビクトリア形電気自動車) 7	■ 有栖川宮殿下と立川まで遠乗り会 37 ⇒『日本自動車史』P68、P69
■ ミルネス・デームラー・バスとスターリング・バス 8	■ 吉田式ちどり号自動車 38 ⇒『日本自動車史』P73、P81
■ オートバイ初輸入(ドイツ製ヒルデブランド・オルフミルレル) 9 ⇒『日本自動車史』P270	■ 広島県横川・可部間乗合自動車と双輪商会カタログ 39 ⇒『日本自動車史』P82、P83
■ 自動車初輸入(フランス製パナール・ルバソール) 10 ⇒『日本自動車史』P20	■ 自動車運輸株式会社と吉田式トラック 40 ⇒『日本自動車史』P69、P73、P74
■ 石油自動車と自動車競売広告 11 ⇒『日本自動車史』P51	■ 東京自動車製作所の吉田式乗用自動車とカタログ 41 ⇒『日本自動車史』P83、P196
■ 皇太子殿下ご成婚記念献上車 12 ⇒『日本自動車史』P21	■ 山羽電機工場、山羽虎夫一家と岡山公園の銅像 42 ⇒『日本自動車史』P106、P112、P124
■ 米国製ウッズ自動車 13 ⇒『日本自動車史』P21	■ 山羽虎夫の特許「揮発油瓦斯機関」と「山羽式プラグ」 43 ⇒『日本自動車史』P123、P124
■ 高田商会、高田慎蔵、広田精一 14 ⇒『日本自動車史II』P141	■ 中根鐵工所(大阪) 44 ⇒『日本自動車史』P111
■ ナイアガラ蒸気自動車 15 ⇒『日本自動車史』P19、P25、P43	■ 岡田商会(大阪)のフォードA型輸入 45 ⇒『日本自動車史』P111『日本自動車史II』P87
■ オリエンとトーマス自動車 16、17 ⇒『日本自動車史』P20、P25、P110	■ 日露戦争講和会議と各国代表者の自動車 46
■ モーター商会 18、19 ⇒『日本自動車史』P11、P21、P22	■ 大阪自動車株式会社のホワイト蒸気自動車 47 ⇒『日本自動車史』P256、P257『日本自動車史II』P42
■ オールズモビル、デュリエ、クレメント・デリバリーカー 20 ⇒『日本自動車史』P23、P24、P38	■ 東海自動車株式会社(静岡県)と鈴木伊八郎(三重県)の乗合自動車 48 ⇒『日本自動車史II』P46
■ 上野不忍池畔に自動車集合、広島県鳥飼繁三郎の自動車 21 ⇒『日本自動車史』P24、P25、	■ 奈良県山口安治郎とグラバーのホワイト蒸気自動車 49 ⇒『日本自動車史II』P48
■ 東京芝浦製作所小林作太郎技師の栄誉 22 ⇒『日本自動車史』P174、P270	■ 有馬自動車株式会社(兵庫県)と有馬ホテル 50 ⇒『日本自動車史』P159
■ 林平太郎の日本自動車商会と小磯鐵工所 23 ⇒『日本自動車史』P13、P27、P33	■ 双信自動車商会(長崎)のノックス自動車 51 ⇒『日本自動車史』P206
■ ロコモビル蒸気自動車と名古屋商会、井善鋳油部 24-26 ⇒『日本自動車史』P86、P87、P97	■ 名古屋鐵工所の自動車製造、桑原樸の特許「瓦斯及石油発動機」 52 ⇒『日本自動車史II』P23
■ 川田龍吉男爵記念館、鹿児島緒方精とロコモビル自動車 27 ⇒『日本自動車史』P84『日本自動車史II』P95	■ 桑原樸の特許「油発動機」 53 ⇒『日本自動車史II』P23
■ トレド蒸気自動車、ウエバリー電気自動車、京都二井商会 28、29 ⇒『日本自動車史』P96、P97、P104	
■ 高木喬盛館のトレド蒸気自動車とデュリエ自動車 30 ⇒『日本自動車史』P263	

(上)わが国に初めて自動車を紹介した東洋学芸雑誌の表紙と記事、
明治28年11月25日号 (下)世界最初の自動車レースを報じた新聞「日本」のイラストと記事



○自動車、欧米にては近頃頻りに馬を使用せず電気、蒸気
又は石油機関等を仕掛けて普通の道路を自由に進行す可
き車を造るとに工夫を凝し佛國に於て本年六月ヴェルサ
イユよりポルドーに至り夫より引返してパリに達する
競争を爲し廿二個發したる中九個は一百時間此旅行を
爲したりと云ふ其他米國に於ても英國に於ても懸賞して
「無馬車」の計畫を募り居る由又英國の馬車製造者組合の
集會に於ては一大問題として之に付て議する所有りたり
と近着の諸雑誌に見へたり

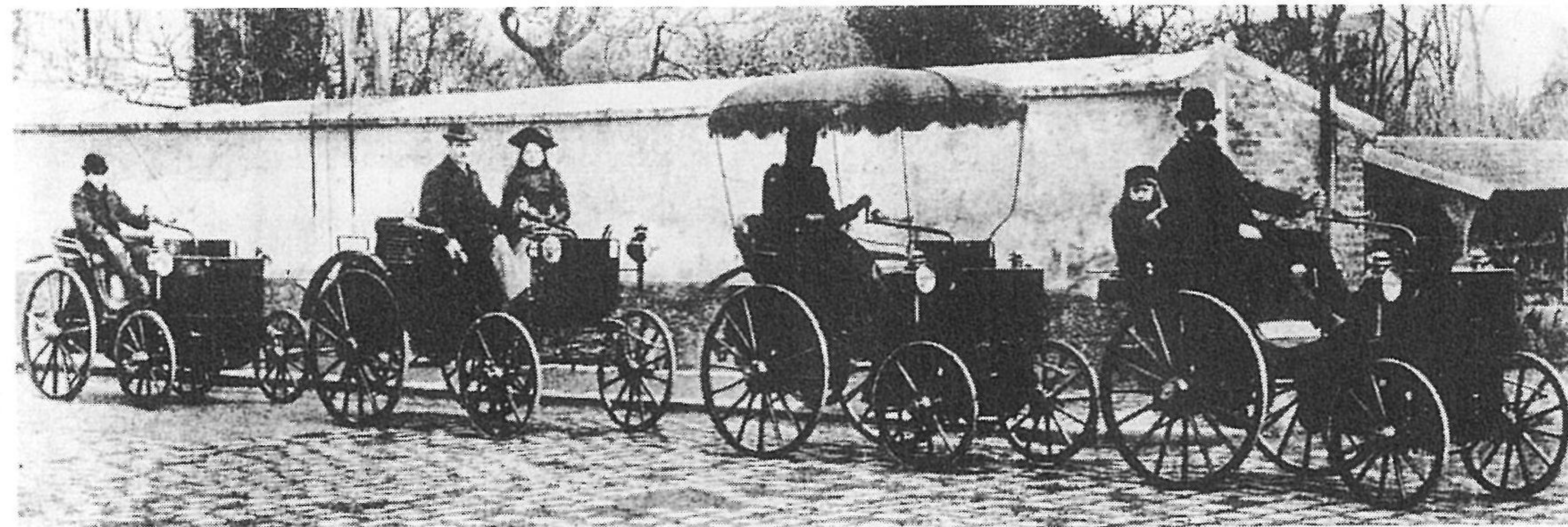
本日 明治二十九年一月廿三日



●一人乗の馬車と馬いらすの馬車
試運転に案外の好果を収めたる石油發動自動車に關す
る記事は「一人乗の馬車」と題して廿一日の紙上に之れ
を掲げり、今更此自動車の石油を原動力と爲すこと
を説き起したることこそあれ、事は一昨年十二月の
頃と覺ゆ佛國新聞紙の王と稱せらる「ブチー、エム
ナール」は其の紙上に一等五千法の賞金を懸け危険少な
く操縦自在にして路上費用の多からざる旅行用の機械
馬車を造れり。機械馬車とは其實馬車にあらざる種々の
原動力を流車に應用して馬匹に代へて通常の馬車に
勝る効用を爲さしむるものなり馬車にて「ブチー、ジ
ムルチー」の勲企は近來此種の馬車を工夫して遊覧又は
旅行に供せんと欲する者漸く多からんとするの状勢を
見たる機械師の湯米壯て固より斯種の馬車にあらざる
懸賞問題の「たが紙止に見はる、や西より東より來り
て競争試験に應じたもの無慮一百餘臺、ブチー、ウ
ムナール乃ち一百餘臺の中より更に競争に堪ふべ
きもの四十六臺を撰抜して三日間の實地試験を行へり
事によしたる機械車の種類は或は横軸或は縦軸或は電
氣或は無期或は蒸氣にして石油を以て原動力と爲すも
の最も多し、然れども車上の座席は三席以上入席は六
席以上は悉く蒸氣力を使用せるが如し、而して試験
の結果は石油を原動力に用ひたる機械馬車の所有者バ
ナール、エム、ルツアツツ、グロム、二入の子に
勝り、蒸氣機械馬車所有者ド、マイ、エ、ン二等賞を得
て歸るなり

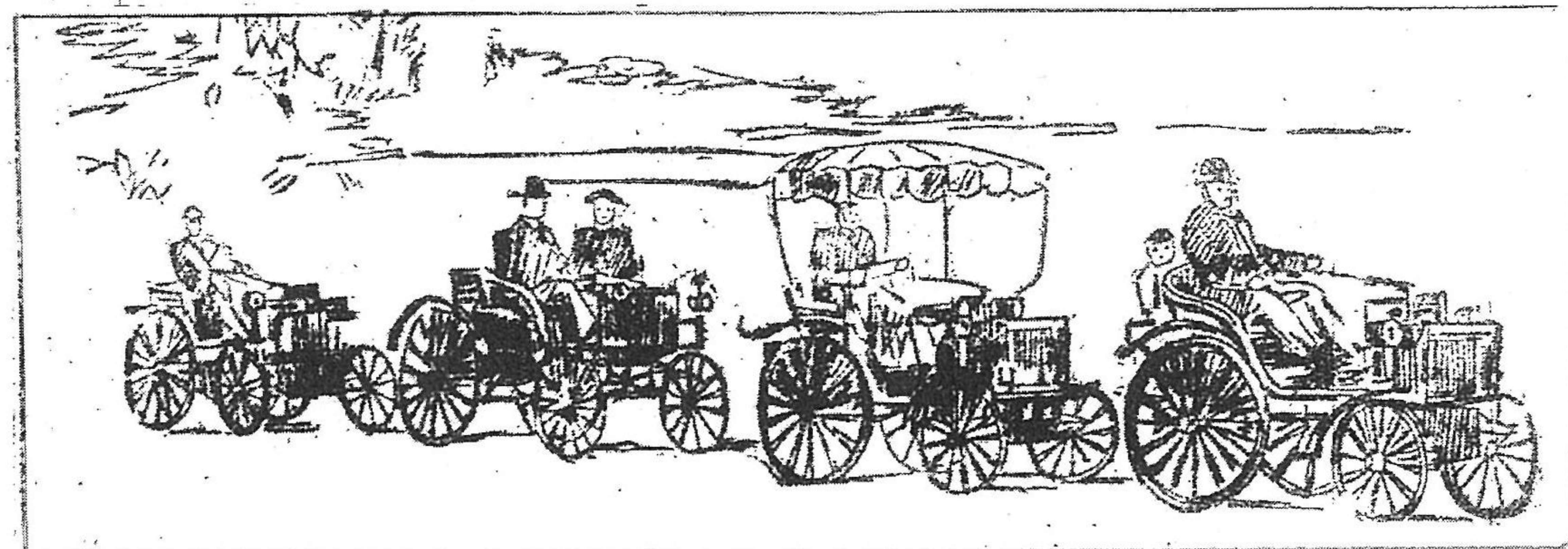
■本書について

長年の蒐集にあたり、史料の出所がわかるように新聞名などを切り貼りしたため、
その跡があるものや、なにぶん古い史料につき傷みや汚れが著しいものがあります。
ただし本書の史料性を損なわないために、文字などが判読できることを優先し、あ
えて画質調整をしていない部分がありますことをご了承ください。



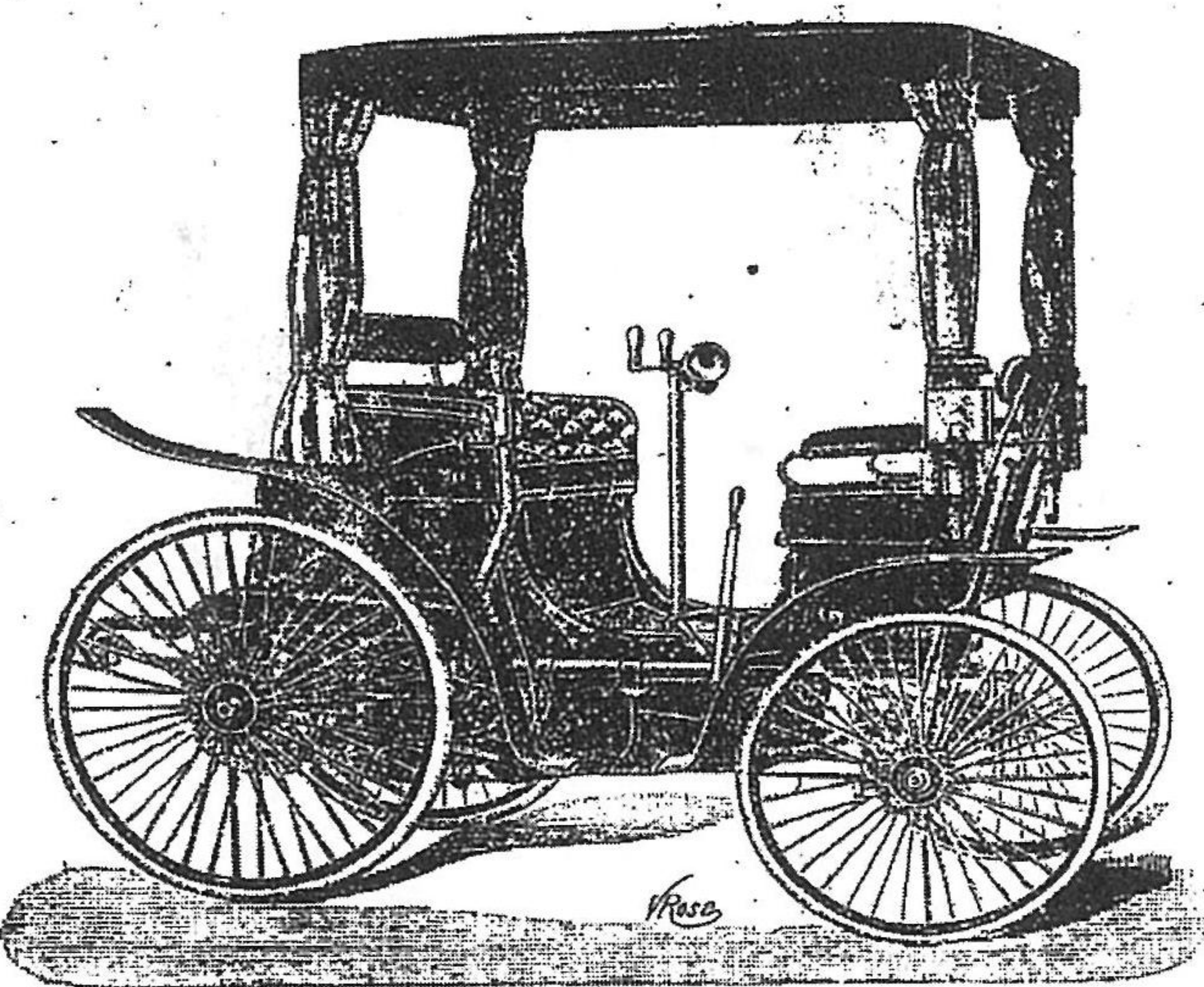
promenade of Panbarés from the factory in 1892, with Levassor leading.

東京日日新聞 明治三十一年一月一日



(上) フランスのパナール工場が製作した自動車でドライブに出発するところ、先頭がルバソール

(中) それを模写した東京日日新聞のイラスト



再被の蓋を、運轉の開始に、前に十分を要するのみ。進行中の停止も爲すを得ず。自動車を照らす。各車輛を、堅固なる種別製、タイヤ及制動機を備へ、且土埃の高底に從へ、三四種の速力を得べし。全長十三「フット」にして、汽機馬力ハ三馬力乃至三馬力四分の三なり。車輛の却走に、挺を速に運轉すべし。石油(車容の分器)に貯へ、自動的に輸送し得べく、消費額一哩に付給を半片に過ぎず。又四箇の冷却を要するが故、十ガロンの水を輸送し、三十哩程に之を替ふ。

以上ハ其概説なり、詳細ハ前號ハ參照せよ。

◎馬を用ゐざる車輛
下圖ハ、前號「馬を用ゐざる車輛」の條下に挿入すべき等なりしに、原板の調製遂に期日に成りせず、已むなく省略したるものなり。今本號の發刊に際し、折角の勞力を没却するに忍びず、特に左に掲げ、合せて前號所載の要を摘記すると左の如し。

「英国商業雑誌」明治29年3月10日号、馬を用いざる車輛とその記事

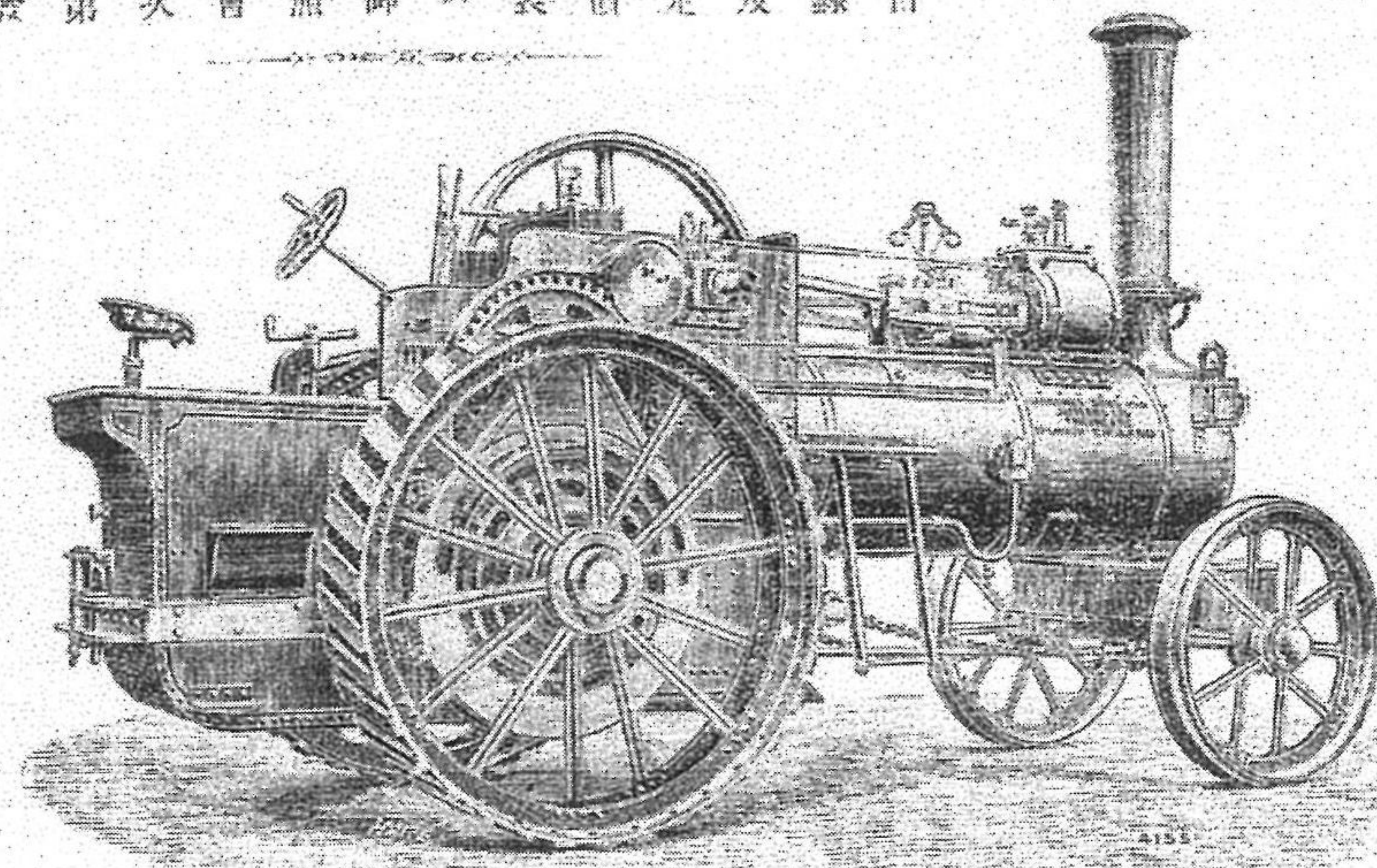
RANSOMES, SIMS & JEFFERIES, LIMITED.

Orwell Works, Ipswich, & 9, Gracechurch Street LONDON, E. C.

Telegrams: "RANSOMES, IPSWICH," or "ANGLIA, LONDON."

種 各 機 汽
種 各 罐 汽

送發第次會照御ハ表價定及録目

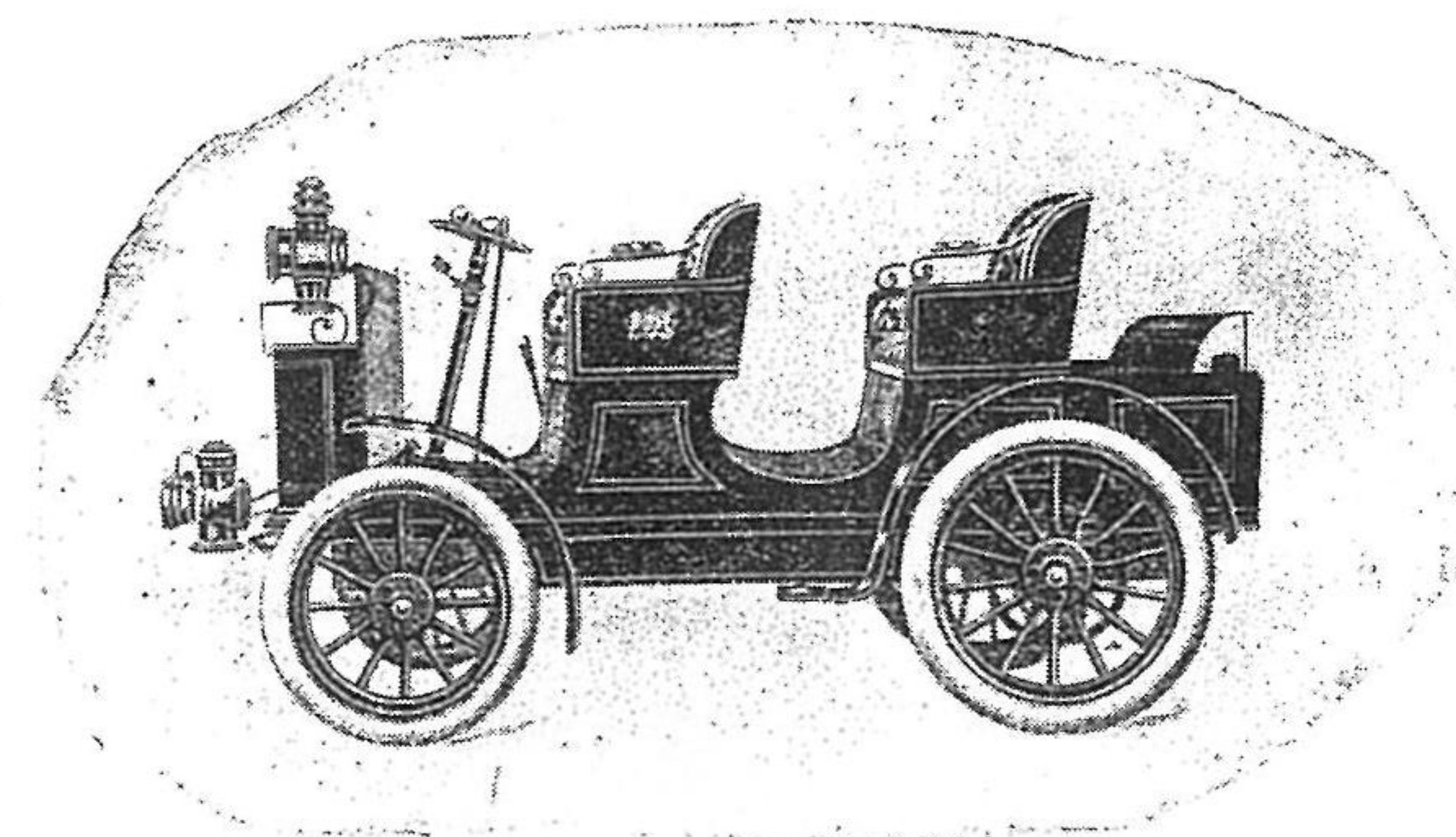


誌 雜 業 商 國 英

印 "P. T. L."

車動自力汽とれはるさーあなどーが

フ用ヲ油石用ブンラ「ンヒラバ」ノ通普ハ料燃



ノモルレ造リヨニ命ノ下陸帝皇國英ハルセ示圖
スラカベ得有ニ的對絶ハ發爆

シナ虞ノ壊破 シナ倒面的發蒸ハ或的气電
少些ニ外格費繕修存保

フエヲ會照御ニ元造製許特手一國英大記下ハ細詳ビ及價代

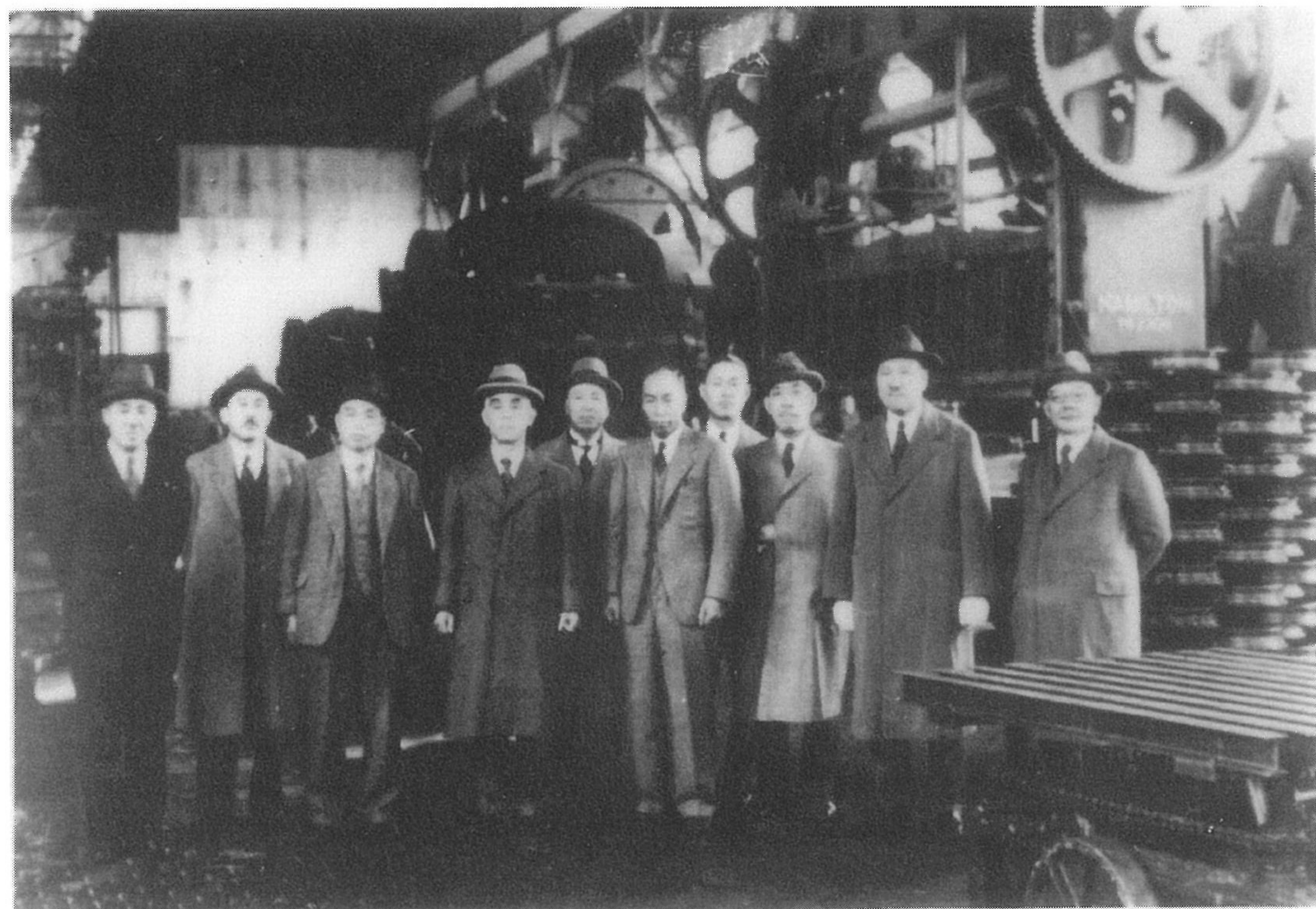
BRITISH POWER TRACTION AND LIGHTING CO. LTD., ENGINEERS, YORK, ENGLAND.

電報名宛—"Metals."

所用略電書—A B C. Code.

XI

The British Trade Journal, Japanese Edition.



昭和9年10月、日産自動車株式会社子安工場視察の自動車業界幹部たち（向って右から）
石沢愛三（日本自動車）中谷保（安全自動車）吉崎良造（ダットサン商会）内田慶三（日産自動車）
柳田諒三（エンパイヤ自動車）小川菊造（中央自動車）梁瀬長太郎（梁瀬自動車）小津緑平（松永自動車）
菅野利兵衛（葵自動車）山本惣治（日産自動車）



昭和50年（1975）5月27日、上野不忍池弁天堂脇に建立された「東京自動車三十年会（みそじ会）記念碑」。特別功労者として石沢愛三、柳田諒三、梁瀬長太郎、中谷保の名前が最上段に刻まれている

INDEX

アの部

- アスター・エンジン …17
- アンドリュース・ジョージ商会 …28、29、33、213、235、502
- アベンハイム …31
- 有栖川宮殿下 …35、37、67
- 有馬自動車株式会社 …50、51
- 有馬ホテル …50
- 油発動機（特許） …53
- 浅野総一郎 …70、137
- アーガイル …85
- 旭パーソン号自動車 …94、121
- アリエル自動自転車 …121
- 安中電機製作所 …121
- 会津自動車株式会社 …154
- アルゴ・タクシー・メーター …175
- アローフィールド商会 …206、214
- 亜細亜貿易商会 …227
- 秋田自動車株式会社 …228
- 秋田自動車商会 …228
- 足助自動車株式会社 …249
- アーレン …250、305、327
- アロー号 …251
- アンビュランス（救急車） …264
- アート・スミス …272、273、274
- 粟津温泉とフォード …277
- アラガキ自動車（沖縄） …290
- アサヒ自転車商会 …291
- アート商会 …299
- アッパーソン …308
- 安全地帯 …311
- 秋田大曲のフォード …320
- 合資会社葵自動車商会 …322、323、324、325
- 安全自動車株式会社 …328、329、507
- 旭自動車運輸株式会社 …335
- アベックス …355
- アレス …378
- アレス小型車（製図） …379、380
- アレス中型車（製図） …379、380
- 温海温泉自動車株式会社 …413
- 合資会社秋口自動車商会 …437、439
- アーモスケッグ消防自動車 …473

イの部

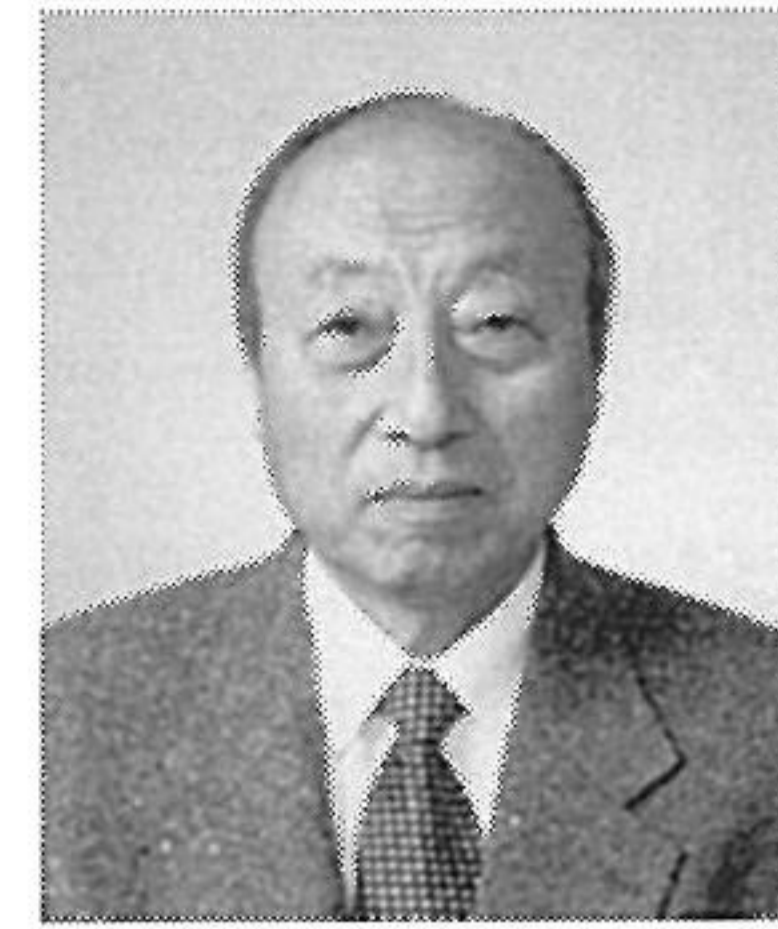
- 井善鋳油部 …25
- インターナショナル・モーターカー会社 …28
- 伊藤博文 …67
- 井上喜美枝 …76
- 一丁ロンドン（丸ノ内） …88
- 巖谷季雄（小波） …92
- 石丸繹 …114
- 猪俣吉平、インディアン自動自転車 …120
- イソッタ …120、182、217、218、358
- 池貝鉄工所（吸入瓦斯発動機） …121
- 岩倉具高のラウリン・クレメント …157
- 石橋計器製作所 …175
- イズミヤ自動車商会 …180
- 市原求（特許） …192
- E・M・F …209
- 石橋正二郎のフランダース …211
- 伊藤音次郎 …215
- 井上豊 …231
- インパイヤ自動車ガレージ …232
- インターステート …277
- インディアナ …314、315、316
- 飯田街道の交通 …330
- イタラ …331
- 伊那自動車株式会社 …336
- 稲畑勝太郎、株式会社稲畑商店 …350、351
- 伊藤忠商事株式会社機械部 …355
- 石川鉄工所（石川繁蔵） …368
- イスパノスイザ …425、426
- 市原唧筒諸機械製作所 …475
- 岩崎半之助の運転手鑑札 …490
- インランド・ピストン・リング …502
- イリス商会 …525
- 生駒山自動車専用道路 …528

ウの部

- 馬いらずの馬車 …1
- 馬を用いざる車輛 …2
- ウヅ電気自動車 …13
- 上野公園でモーター・レース …16
- 上野不忍池畔の自動車勢揃い …21
- ウエバリー電気自動車 …28

佐々木 烈 (ささき・いさお)

昭和4年(1929)3月新潟県佐渡郡佐和田町に生まれる。旧制府立第七中学校中退、慶応外国語学校英語科卒業。佐々木梱包興業自営、解散後、国際自動車株式会社入社。国際ハイヤー株式会社を経て、平成元年定年退社。現在、千葉県船橋に在住。



○著書など

昭和55年11月『街道筋に生きた男たち』出版、総合出版センター
昭和60年6月『ザ・運転士』出版、総合出版センター
昭和63年8月『車社会その先駆者たち』出版、株式会社理想社
平成6年4月『明治の輸入車』出版、日刊自動車新聞社
平成11年1月『佐渡の自動車』出版、株式会社郷土出版社
平成16年3月『日本自動車史』出版、三樹書房
平成17年5月『日本自動車史II』出版、三樹書房
その他、「軽自動車情報」全国軽自動車協会連合会機関誌、「トラモンド」株式会社トラモンド社、「日刊自動車新聞」など自動車関係記事多数執筆。

日本自動車史 写真・史料集

2012年6月26日 初版発行

著者 佐々木 烈

発行者 小林 謙一

発行 三樹書房

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-30

TEL 03(3295)5398

FAX 03(3295)4418

印刷・製本 株式会社 シナノ パブリッシング プレス

©Isao Sasaki/MIKIPRESS 三樹書房 2012

落丁・乱調本は、お取り替え致します

Printed in Japan